

9 月度 <b>例会</b> <b>個人</b>	<b>山行報告書</b>		報告者	大矢康裕	参加 メンバー	CL:大矢康裕、浩貴
			報告日	10/10		
山域	鈴鹿	山行日	07年 9月 15日(土)			
山名	釈迦ヶ岳					

山行目的	山歩きに慣れる	コースタイム(天候:天気図記号)
------	---------	------------------

配布先
集会:12
山行: 1
リーダー
原紙: 集会担当者

ルート図(地図を見て正確に)

2.5万分の1 御在所岳

9/15 曇 雨
8:20 自宅発
9:20 登山口
9:40 出発
10:20 一本
10:30
10:50 登山口下山
13:10 自宅着

山行報告 8月は気象予報士試験の準備のため山に行けず、1ヶ月半ぶりの山行。目指すは鈴鹿セブンマウンテンの一つ、釈迦ヶ岳(標高 1092m)だ。残念ながら天気は、九州西海上にある台風11号により、南から高相当温位の暖湿気が流入して対流不安定となった空気が山の南側斜面を強制上昇して、不安定が実現するという、まるで教科書通りの気象状況。案の定、登山口に近づくに従って、空模様が怪しくなり、雨が降り出した。それでも、長男と、『行ける所まで行ってみようか』と話し合っ、増水と鈴鹿名物のヒルを警戒して、当初の庵座谷ルート避けて、松尾尾根ルートから登り出す。

最初の本を短めに取ったところで、長男が腕に食いついているヒルを発見。これはいかんと思い、足を見ると、いるわいるわ、ふくらはぎ、足首、靴の中、腕、首筋など、数え切れないくらいのヒルが。私は学生の時のワンダーフォーゲル部時代から、過去26年間にわたって長年鈴鹿の山を登っているが、これほど大量のヒルは見たことがない。今年の夏は、40 近い猛暑だったため、異常発生したのかもしれない。ルートの至るところでクモの巣が張っていたので、最近入山した人がいなかったと思われ、我々は飢えたヒルの格好のエジキになってしまったようである。『まあ、こんなこともあるわさ、何事も経験、経験だ。わっはっは!!』と笑って長男を励まして、ヒルに食いつかれないように一目散に下る。涼しくなって天気がよい時に、雪辱を期すことにする。

確認 (リーダー)
大
07/09/15
矢
作成 (報告者)
大
07/09/15
矢

リーダー所見 この時期、天候の悪い時に鈴鹿に入山するのは最悪のようだ。私も実は9月上旬の雨天での鈴鹿山行は初めてで、過去、6月の梅雨時に沢ルートを登った時より、はるかにヒルの数が多い。悪天候が予想される時は入山を見合す、何らかのヒル対策を講じるなど、一考を要する。

フリースペース  
山の紹介・スケッチ・エピソード・その他自由に

ヒルに食いつかれた私の足